

## Ⅱ 浅海増養殖試験事業

### 1 トラフグ歯切り試験

狭 間 弘 学

#### 目 的

トラフグ養殖では噛み合いや破網を防ぐために、歯切り作業は必要不可欠なものとなっている。しかし、歯切りの方法や時期によっては成長や生残の低下につながり、技術の確立が望まれている。そこで、歯切りの時期について検討する。

#### 材 料 お よ び 方 法

供試魚：南部町漁業協同組合の海面小割で中間育成中のトラフグ稚魚を1991年8月3日上歯を切除したのち、海面小割で予備飼育して供試魚とした。予備飼育期間中の餌料はモイストペレット（イカナゴとマダイ用配合飼料を4：6に混合）を1日2～3回飽食量を与えた。

試験区：供試魚は3×3×3mの小割網4面に100尾づつ収容し、1区は試験開始から10週目に、2区は20週目に、3区は30週目に全個体を取り揚げて上歯を切除し、4区は歯切りをせず対照区、として'91年9月24日から試験を開始した。なお、給餌はモイストを夕方1回飽食量与え、土曜日は無給餌とした。

魚体測定及び歯切り：測定は5週間ごとに各区の生残尾数、全魚体重を測定した。歯切り時にはFA-100（田辺製薬K.K.）1/5000溶液で麻酔した後に上歯を切除し、歯切り後はニフルチレン酸ナトリウム20ppm溶液で20分間の薬浴によって消毒を行った。

水温の測定：毎日午前9時に生簀外側の表面水温を測定した。

#### 結 果

試験は現在飼育継続中。